

## 学位論文内容の要旨

学位申請者	久保 陽子 【比較社会文化学専攻 平成20年度生】	要 旨
論文題目	寺山修司の演劇媒体を通じた制度解体	<p>本論文は3部構成からなる。</p> <p>序論はまず寺山の芸術活動のあらましと、同時代の世界や日本が既成の価値観を変革する活動が盛んであったポストモダンの時代であったことを説明している。次に寺山の芸術活動が一貫して既成の価値観に揺さぶりをかけ、あるいは大胆に制度解体を目論み、世界のあり方を変えろという、世界的なポストモダンの潮流と連携しつつも、政治的活動では無いあくまで芸術活動を通して行ったこと、またその中でも最も効果が期待されるメディアとして、聴衆としての一般市民に対して、即時的にかつ対話的に制度解体を実感させることが可能な演劇を選んだことを明らかにした。</p> <p>第1部では初期の「青森県のせむし男」「大山デブコの犯罪」「毛皮のマリー」を分析して、「見世物」復権と「等身大」の概念の崩壊を通して、家族制度や性規範が解体されており、作品内の詳細な分析の中で制度化された身体に揺さぶりをかけていったさまが辿られている。</p> <p>第2部では中期の活動について、これまで論究が少なかった同時代の海外の前衛的な演劇動向が寺山に与えた影響を考察している。特に演劇という制度そのものの脱構築を試みた市街劇の実践が論じられ、さらには商業演劇の枠組みで上演された「青ひげ公の城」における「観客との相互創造」の様相が詳細に分析されている。</p> <p>第3部では晩年の活動について、「田園に死す」(映画)、「奴婢訓」「レミング」を通して、近代的な自我を端的に表す「私」の在処が揺らぎ、解体していく様子を、記憶の修正、主人の不在、部屋の壁の喪失による衆人監視、といった主題の意味づけを通して追究している。</p>
審査委員	(主査) 教授 大塚 常樹	
	教授 戸谷 陽子	
	准教授 谷口 幸代	
	教授 浅田 徹	
	教授 守安 敏久	